

# 女子大における初等教育教員養成カリキュラム開発 のための基礎的調査 (1)

溝 邊 和 成・大 曲 美佐子

船 越 俊 介・原 田 亮

## A Research on the Curriculum Development for Elementary School Teachers' training at Konan Women's University (1)

MIZOBE Kazushige, OMAGARI Misako,  
FUNAKOSHI Syunsuke and HARADA Ryo

**Abstract :** This research is one of the studies conducted for the Curriculum Development for Elementary School Teachers' training at Konan Women's University. The first purpose of this research is to find out the favorite subjects of students, who are eager to become elementary school teachers. The second is to show their beliefs about a class and a teacher at the elementary school. The results were as follows :

- 1 When in elementary school and junior high school, they liked to learn science, math and social studies more than students who had no desire to be elementary school teachers.
- 2 They considered the elementary school class to be interesting, an important matter for their future and to be composed of a lot of content using various methods.
- 3 They considered the elementary school teacher to be an intelligent person, a supporter, a model, and a communicator.

### 1 研究の目的

本研究は、本学「総合子ども学科」(以下、本学科と称する)における初等教育教員養成カリキュラムの開発プロジェクトの基礎的調査として位置付けている。その目的は、本学科における教員希望学生に対して、これまでに受けてきた教科や授業等に関する意識調査を行うことである。具体的には、次の2点について調査するものである。1点目は、小・中学校時代に実施された教科に対する関心(好き嫌い)について、その傾向を明らかにすることである。2点目は、小学校時代の授業や教師についてどんなイメージを保持しているかを明らかにすることである。

### 2 研究の背景

近年、教員に求められる資質・能力が注目され、高度な専門性や確かな実践的指導力、総合的な人間力等が話題となってきている(例えば、文部科学省, 1997, 1999, 2005)。それに伴い、免許制度の在り方も「教員免許の総合化、弾力化」や「教員免許更新制」導入等の改善がなされ始めている(文部科学省, 2002, 2006)。また、文部科学省は、大学が中心となる高等教育においても知識基盤社会の到来を受け止め、積極的にカリキュラム改革を打ち出してきている(文部科学省, 2005)。このような動きの中で、大学教育における教員養成にも変化が見られ始めている。最近の教員養成に関して、文部科学省は、先の「教員免

許更新制」をはじめ「教職課程の質的水準の向上」や、「教職大学院制度の創設」を支持している(文部科学省, 2006)。とりわけ、「教職実践演習」の創設・必修化をはじめ, 教職指導の充実等, 学部段階における教職課程等の改善・充実に期待を寄せている。本学科においても, これまでの学部・学科の成果を踏まえ, 2007年には, 小学校教員免許取得希望の学生を受け入れ, 新たな学科へとシフトしてきている。こうした例は, 本学近隣の女子大学においても, いくつか見られる<sup>1)</sup>。学科再編まで行われないまでも, 小学校教員養成課程の認定を受ける学部・学科が増え, 今後幼稚園教員や保育士のみならず小学校教員を多く輩出することになり, 私立女子大学の責務がますます重大になってくることが予想される。この点, 山崎(2006)は, 取得免許の専門性とその保証について指摘している。すなわち, 変貌を遂げつつある学問分野および教育・研究組織の中で, 今日視点に立った専門性の内実を明確にするとともにその獲得を保証していくシステムが必要であるとしている。事実, 課程認定を受け, 新たな免許取得が可能となった学部・学科では, カリキュラム構想は, 必要最低限が示されているものの, 実際には, 入学してきた学生に即した教員養成カリキュラムが実施されなくてはならない。その対策は, 事前準備とともに, 入学後の学生に対する実態を踏まえたカリキュラムの実施になるだろう。これら一連の準備や対応は, 本学のみならず, 課程認定を受けて間もない多くの私立女子大学等で起こりうる事態である。本学においても, 初等教育教員養成カリキュラムの開発研究は, 喫緊の課題と認めるところである。この点に関する先導的な研究が必要であるが, 現在のところ, 直接該当する先行研究は見当たらない。近接の研究報告としては, 教育学部史として大学の教員養成をまとめた報告(TESS研究会, 2001)や理念や制度等に傾斜した11編の報告<sup>2)</sup>, さらに「体験-省察モデル」の提示(岩田, 2006), 国立大の学生に対する「現代教職論」の授業評価(榊原ら, 2005)などがある。しかし, いずれにおいても本学のような私立女子大の教員養成のカリキュラム構築は話題とされていない。私立大学における教師教育については, 黒澤(2006)によって史的な取り組みが整理されているものの, 開放制教員養成制度の具体的な取り組みは, なお課題として指摘されるに留まっている。最近の女性教員に関する研究では, 日本女子大学ら5大学による「女性中核教員養成女子大学連合モデル-女子大学連合によるプログラム開発-」(2007年度「専門職大学

院等教育推進プログラム」採択)が見られる程度であり, 女子大学における初等教育教員養成カリキュラムの開発に関しては, 着手されていないのが現状である。

### 3 研究の焦点化

#### 1) 小学校教員希望学生の教科への関心

小学校教員を希望する場合, 保育士や幼稚園教員とちがって, 教育活動の中で中心となるのがいわゆる教科教育である。当然, この点を反映した形で, 大学の教員養成カリキュラムが構築されなくてはならない。最近では, 教育現場において, 学力低下問題がクローズアップされている。例えば, 一つの教科「理科」に絞ってみても, PISA(2003)やTIMSS(2003)の調査<sup>3)</sup>に象徴されるように, 「科学的リテラシー」や「読解力」等において学力の低下が指摘されている。こうした現状の中, 大学教育においても指導力の高い教員の育成が強く求められてきている。では, 大学・学部において, どのような点を重視した授業を実施すれば指導力豊かな小学校教員を育成することができるだろうか。この点で, 文部科学省は, 一つの政策として「教職実践演習」の必修化を提示している(文部科学省, 2006)。この教職実践演習を4年次の後期に位置付けることによって, 学校現場に出る準備段階が期待できるが, 4か年のカリキュラム全体からみた役割を問わなくては, 十分な成果も望めないだろう。つまり, 4か年にわたる教員養成のカリキュラム開発が重要な課題といえるのである。こうしたカリキュラム開発研究においては, 基礎的な調査研究は欠かせない。その点, 示唆的な研究も少しずつ進められてきている。例えば, 理数系教科に関していえば, 澤田らは, 1993年から4年間にわたり, 「数学・理科の教師教育プログラムの開発に関する実証的研究」(基盤研究A-2, 代表: 澤田利夫)を行っている。その基礎的な研究の一つに, 「教科に関する児童・生徒の関心」について調査が行われてきている。それらは, 性差によって, あるいは学年を追って教科に対する関心がどのように変化するか, その傾向はどうか等を明らかにしている。澤田らによれば, 例えば, 小学校では, 体育科や図工科が好きな教科として選択され, 中学校では保健・体育科や音楽科, 社会科が好まれているとの結果が得られている。また, 男女間の有意差については, 小学校では, 国語科, 音楽科, 家庭科は, 男子より女子が, 社会科, 算数科, 理科, 図工科, 体育科で

は、女子より男子が好きな教科という結果であった。中学校においては、国語科、音楽科、美術科、英語科では男子より女子が、社会科、数科、理科、保健体育科では女子より男子が好きな教科であるという結果であった。

また、女子生徒と教科目との関わりについては、村松ら(2000, 2001, 2002 a, 2002 b)の中学生を対象にした一連の研究報告が示唆的である。村松らによれば、理科が嫌いな女子の「理科離れ」傾向が、中学入学後の1年間で急速に進むことを明らかにしている。理科好きの女子が中学校1年の時点で見られた理科に対するポジティブさを比較的維持しているのとは対照的であった。さらに、「理科好きと職業選択との関係」では、女子中学生は、男子中学生ほど大きく関連しておらず、理科が好きでも嫌いでも将来の仕事として理系以外の仕事をしたい女子が多い結果が得られている。

以上のような教科にまつわる実態を踏まえれば、大学の教員養成のカリキュラム開発においても、教科と小学校教員希望の学生との関係を明らかにし、それに基づいた検討が十分になされる必要があるといえる。

## (2) 小学校教員希望学生の授業観・教師観

教員として子どもを指導する際、いわゆる授業観を持たないで授業を行うことはない。何らかの考え方をもち、教材研究をしたり、授業中に発問・助言を行ったりする。また、教師としての振る舞いも自身の持つ教師像や教師に対するイメージから起こる。例えば、高校の理科の授業において、科学的真理である知識や法則を学ぶことを目的と考える教師と科学的発見の過程を授業で再現することを目的と考える教師では、同じ実験でもその重点の置き方が異なっている(Brichouse, 1990)。このような授業づくりは、言うまでもなく、教師がもつ信念、いわゆる授業観が働いているのである。したがって初等教育教員養成カリキュラムを開発する際、小学校教員を希望する学生が、どのような授業観や教師観を保持しているかを検討しておくことが望まれる。そのことによって、実習や模擬授業等を含む実践力育成をめざすカリキュラムへの配慮も可能になると考えられる。

ところで、個人が内面に保持している授業観や教師観といった信念は、その語りに表れることが多い。この点に関する先行研究に、メタファ研究が挙げられる。アメリカの教師の思考研究で展開され、日本においても学校や子ども、授業に関する研究が見られる

(例えば、小沢, 1985, 石戸, 1994, 秋田, 1994, 1996, 1998)。これらの研究では、メタファ生成課題として学校などのとらえ直しを目的としている。この手法を用いた堀江・羽野(2000)の研究では、教材に着目し、教材メタファを生成する課題によって教員養成系学生の変容をとらえ、大学授業改善に反映させようと試みている。本研究においても、こうした先行研究の手法を参考に、小学校教員希望学生の授業観等を検討することは、カリキュラム開発への基礎資料になるととらえている。

## 4 調査の内容と方法

前節に述べた点を踏まえ、調査を次のように設定する。一つは、先に示した澤田らの研究内容及び方法を参考に、小学校教員を希望する本学科の学生に対して、小、中学校時代の教科に対する関心(好き、嫌いの感情)がどのように関係しているかを明らかにする。もう一つは、小学校の教師や授業のメタファを生成することにより、個々に保持しているイメージを明らかにする。具体的な調査内容と方法は、以下の通りである。

### (1) 調査1

対象：本学女子学生 127 名(2007 年度入学生)

調査日時：2007 年 7 月

調査内容・方法

- ① 取得希望免許の種類・希望理由：3 種類の取得可能免許「保育士免許」「幼稚園教員免許」「小学校教員免許」に対して、取得したい免許を選択させる(複数選択可)。希望理由については、「ぜひ保育士になりたいから」「ぜひ幼稚園教員になりたいから」「ぜひ小学校教員になりたいから」およびその他の項目から主たる希望理由を選択させる。
- ② 教科目への関心：「小・中学生時代どのような教科目が好きだったか」について 5 段階評定(5:とても好き, 4:好き, 3:ふつう, 2:きらい, 1:とてもきらい)を行う。なお、対象とした教科目等の名称は、小学校及び中学校の現行の学習指導要領に示された教科名にしたがっている。

### (2) 調査2

対象：小学校教員希望学生 14 名(2007 年度入学生)

調査日時：2007 年 7 月

調査内容・方法：文章完成法によるメタファ生成

幼稚園・保育所の「教師」「授業」および小学校の「教師」「授業」に対するメタファとその理由を文章表記させる。

## 5 結果および考察

### (1) 調査 1 の結果・考察

#### ① 免許取得希望の実態と希望理由

保育士、幼稚園、小学校免許取得可能な本学において、どの免許取得を希望するか調査を行ったところ、Table 1 に示すような結果が得られた。

Table 1 免許取得希望

	保育士	幼稚園教員	小学校教員	なし
人数	107	112	36	15

ただし、複数回答を含む。N=127

全体の人数 127 名中 112 名が幼稚園教員の免許を取得希望しており、そのほとんどである 107 名が保育士の免許取得を希望している。小学校教員免許取得希望者は、全体数の 3 割強の 36 名であった。

主たる希望理由については、Table 2 の結果となった。

Table 2 希望理由

	保育士	幼稚園教員	小学校教員	その他
人数	53	31	14	29

N=127

「保育士」を選択した人数は、全体の約半数を占めている。「幼稚園教員」については、全体人数の 3 割程度であった。「小学校教員」を希望する人数は、14 名で全体人数の約 1 割強であった。

#### ② 教科への関心

教科への関心（教科の好き嫌い）については、小学校教員を希望する学生とそれ以外の学生との比較を行った。結果は Table 3-1, Table 3-2 のようになった。Table 3-1 に示されるように、小学校の社会科 ( $t(112)=2.3, p<.05$ ) および、算数科 ( $t(112)=2.5, p<.05$ ) が、5% 水準で有意であった。同様に理科 ( $t(112)=3.9, p<.01$ ) は 1% 水準で有意であった。家庭科 ( $t(112)=-2.2, p<.05$ ) および道徳 ( $t(112)=-2.5, p<.05$ ) に関しても 5% 水準で有意と認められた。また Table 3-2 に見られるように、中学校時代の教科については、理科 ( $t(112)=5.0, p<.01$ ) が 1%

Table 3-1 小学校教科目に対する平均値 (SD)

教科名	A	B	t 値
国語	3.36(1.28)	3.67(0.93)	-1.12
社会	3.43(1.09)	2.75(1.04)	2.28*
算数	3.65(1.15)	2.65(1.40)	2.53*
理科	3.71(0.99)	2.64(0.97)	3.87**
生活	3.14(1.10)	3.52(0.87)	-1.47
音楽	4.43(0.85)	4.03(1.10)	1.31
図工	3.64(1.22)	3.80(1.03)	-0.52
体育	4.36(1.08)	4.08(3.34)	0.31
家庭	3.07(1.00)	3.68(1.04)	-2.21*
道徳	2.64(1.00)	3.35(0.96)	-2.55*
総合	3.50(0.76)	3.00(1.34)	1.36
宗教	.29(0.83)	.16(0.63)	.67

ただし、A は小学校教員希望者、B はそれ以外の学生を表す。\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$

Table 3-2 中学校教科目に対する平均値 (SD)

教科名	A	B	t 値
国語	3.36(1.34)	3.45(1.03)	-.30
社会	3.43(1.09)	2.72(1.11)	1.93+
数学	3.36(1.45)	2.56(1.43)	1.95+
理科	3.93(1.00)	2.42(1.07)	4.96**
音楽	4.21(1.25)	3.76(1.19)	1.33
美術	3.29(1.20)	3.42(1.16)	-.41
保・体	3.57(1.40)	3.49(1.25)	.24
技・家	3.07(1.09)	3.68(1.04)	-.58
英語	3.38(1.50)	2.94(1.29)	1.15
道徳	2.57(1.16)	3.11(1.16)	-1.63
総合	3.07(1.14)	3.08(1.13)	-.03
宗教	.50(1.09)	.42(1.10)	.26

ただし、A は小学校教員希望者、B は A 以外の学生を表す。また保・体は保健体育、技・家は技術家庭、総合は総合的な学習の時間を示す。\*\* $p<.01$ , +: 有意傾向

水準で有意であった。社会、数学については、それぞれ有意傾向が見られた。

以上の結果から、次の点が明らかになった。すなわち、小学校教員を希望しない学生に比べ、小学校教員を希望する学生は、小学校の教科目である社会科、算数科および理科に対して好意的であったといえる。とりわけ理科に関しては、はっきりと有意であることが明らかになった。家庭科及び道徳については、負の傾向として有意が認められた。また、中学校時代の教科目である社会科、数学科においては、有意傾向が見られたが、理科においては、小学校と同様の結果が得られた。これらの結果からすれば、小学校教員を希望する学生は、小・中学校の教科目である社会科、算数・数学および理科に対して好意的であったと結論づけられる。小学校の教科目では、音楽や体育などの平均値が高い結果からも、小学校教員を希望する、しないにかかわらず、音楽科や体育科は好まれていたと推察できる。こうした解釈からすれば、好意的な科目が他に

認められるなかで、なおかつ社会科や算数科、理科に対して好意を寄せていた点は、他の学生に比べ、どの教科にも一様に関心を持っていたと考えられる。中学校においても、音楽科など平均値が高いことから小学校と同様である点が指摘できる。また、小学校、中学校双方において同じ科目、社会科や算数・数学科、理科が、他の学生と比べ、好意的であった結果は、義務教育期間中、変化せず、継続されていたと解釈できる。この点は、河野（2004）の結果を支持している。しかし「女子中学生は、理科の好き嫌い」と将来の仕事とに関係があまりない」とする中澤（2004）の報告に対して、本調査から異なる見解が推察される。すなわち他教科と同様に理科や算数・数学、社会科などを好む点は、小学校教員希望学生の傾向としてとらえられることである。逆に言えば、他教科とともに理科や算数・数学、社会科に好意的である場合、小学校教員を希望する可能性が高いかもしれない。

上記のほか、小学校の科目である家庭科および道徳に対して有意が認められた。この点については、幼稚園教員や保育士を希望する学生を多く含む小学校教員希望学生以外の学生が、小学校教員希望学生よりも家庭科や道徳の内容・スキル等に対して関心を寄せていたと推察される。

## （2）調査2の結果・考察

小学校免許取得希望理由として「小学校教員になりたいから」と回答した学生14名に対して、幼稚園・保育所と小学校における「授業」「教師」のメタファを生成させ、その理由を記述させた。結果は以下のようになった（Table 4-1, 4-2）。

Table 4-1 に示された授業メタファから、次のことが明らかとなった。幼・保の授業メタファの「⑤あそび」「⑭絵本」では、「楽しい」という授業に伴う感情を挙げていた。また「①パズル」「⑥これから子どものためになるもの」「⑧足場」「⑬まっさらの折紙」に見られるように、授業内容の意義や有用性は、「基礎的事項である」であった。授業内容の多様性を表現している者は、「②色鉛筆」「④空」「⑪探検者」「⑫クレヨン」となる。「③キャッチボール」「⑦遊び」「⑨ままごと」は、学習スタイルに着目した表現となっている。小学校の授業メタファでは、「楽しい」という感情にかかわる表現は、「⑫音楽」に見られる。「①嵐」もこの範疇に含まれると考えられる。「②生活の知恵袋」「⑦人生の分かれ道」は、内容の意義・有用性にあてはまる。内容の特徴として多様性を示しているメ

タファは、「④ルール」「⑪びっくり箱」「⑬海」である。その一方で、「⑩箱に詰まっているお菓子」のように、あらかじめ設定されていることを示している表現も浮かがる。さらに学習スタイルを挙げているメタファも見られる。「⑤実験」「⑧パーティー」「⑨戦争」がそうである。それらのスタイルは、体験的であったり、話し合い活動であったりする。また「⑥1つの世界」や「⑭積み木」も共同作成や積み上げ方式の授業をイメージしていることがわかる。なお「③戦い」については、授業を実施したことがある経験者風にとらえたメタファであり、視点の取り方にユニークさが認められる。

上記の結果を踏まえ、授業（幼・保）と授業（小）のメタファについてまとめると、以下のようになる。1点目は、「楽しい」と感情的側面は、どちらも挙げられていた点である。小学校のメタファ「①嵐」では、「楽しくない」側面も推察できる。2点目として、内容の意義や有用性についても、両者に見られ、基礎的事項であり、将来にとって重要であることが共通されていた点である。3点目は、授業内容の多様性が共通点として見られた点である。「たくさんのが学べる」ことが共通とされているものの、幼・保の授業メタファ「⑪探検者／いろんな事を発見し、求めているから」のような主体的・探究的な側面から小学校の授業メタファ「⑩箱に詰まっているお菓子／きちんと並べられていてある場所も決まっているから」といった決められたことを学ぶような側面も把握されている。4点目は、学習スタイルの面である。遊びの要素や1対1の対応関係が幼・保の授業メタファに表れているが、小学校のメタファでは、体験活動や話し合い活動、共同作成や積み上げ式の授業イメージが見られ、その拡がり予想される。

Table 4-2 に見られる教師メタファについては、以下の通りである。まず、秋田（1996）の教師メタファの分類を参考に、「有識者」「育て手・支え手」「伝達者」「手本」の4つで分類すると、次のようになる。まず幼・保の教師メタファは、「育て手・支え手」に集中しており、「②若返った大人」「③お母さん」「④月」「⑤華」「⑥太陽」をはじめ、「⑬ひまわり」「⑭第2の親」に至るまで（14名中12名）となっている。該当しないメタファは、「①あり／いつも囲まれてバタバタしているから」と「⑪オセロ／優しく厳しく二面性の顔があるから」だけである。一方、小学校の教師メタファでは、「育て手・支え手」として「⑤親」「⑭親友」が該当する。また「有識者」にあてはまる

Table 4-1 授業メタファ

授業 (幼・保)	理 由	授業 (小)	理 由
① パズル	未知の世界をだんだんと埋めていく体験ができるから	嵐	好きな授業以外、荒れていたから
② 色鉛筆	多くの学ぶことがあるから	生活の知恵袋	今の知識のもととは全て小学校の時に覚えたものだから
③ キャッチボール	1つの質問に1つの答えでかえすから	戦い	どう教えたらわかってくれるのかを考えるから
④ 空	いろんな事を学べるから	レール	いろんな方向に進めるから
⑤ あそび	子どもたちが楽しんでいるから	実験	いろいろ身をもって学習することが多いから
⑥ これから子どものためになるもの	子どもにとって初めてなことを多く学ぶから	1つの世界	子どもたちと先生の世界となるような授業であるから
⑦ 遊び	ほとんど勉強せず遊びを通して学ぶから	人生の分かれ道	いろんなことに興味を持てるチャンスだから
⑧ 足場	そこがだめならすべてくずれてしまう	パーティー	みんなで意見を出し合ってわいわいやるから
⑨ ままごと	おもにままごとをしていたから	戦争	みんなが発表したがるから
⑩ 空気	自然体で学ぶことができる。けど、なくてはならないから	箱に詰まっているお菓子	きちんと並べられていてある場所も決まっているから
⑪ 探検者	いろんなことを発見し、求めているから	びっくり箱	習うことのほとんどが初めてだから
⑫ クレヨン	いろいろなことを学ぶから	音楽	楽しいから
⑬ まっさらの折紙	幼稚園などで学ぶ基本的なことを大きくなるにつれて発達させて、折り重ねていって“形”をつくっていくから	海	教えきれないから
⑭ 絵本	楽しいという気持ちを持ちながら学べるから	積み木	一つずつ一つずつ積み重ねていくから

Table 4-2 教師メタファ

教師 (幼・保)	理 由	教師 (小)	理 由
① あり	いつも子どもに囲まれてバタバタしているから	ダーツの的	子どもに気に入られなければターゲットになる
② 若返った大人	子どもの立場に立っていっしょに遊ぶから	働きバチ	いろいろな仕事に追われて走り回るから
③ お母さん	親身になって相談できるから	政治家	良い人もいれば、悪い人もいる
④ 月	太陽と月だから	博士	何でも知っているから
⑤ 華	いつも笑顔で子どもに優しいから	親	子どもを見守っているから
⑥ 太陽	子どもにいつも笑顔で元気だから	指示棒	子どもたちを教育する人だから
⑦ お姉さん	優しく時には怒ってくれるから	弱虫	今の先生はすぐ辞めようとするから
⑧ 親鳥	とびまわってみんなをあやすから	辞書	全ての授業を教える力を持っているから
⑨ お母さん	すごくやさしい	あこがれ	すごくかっこいいから
⑩ 太陽	やさしく見守りかつサポートしているから	ロボット	働くマシーンという感じがするから
⑪ オセロ	優しく厳しく二面性の顔があるから	ものさし	自分の意見があるから
⑫ 母親	面倒を見てくれるから	体力勝負	体力がないと小学生の相手はできない
⑬ ひまわり	笑ってて、強くてやさしいから	アヒルの親	小学生は付いてきてくれるわ
⑭ 第2の親	我が子のようにかわいがってくれるから	親友	信じられるし相談もちゃんとのってくれるから

幼・保の授業メタファは見られなかったものの、小学校の授業メタファでは、「④博士／何でも知っているから」「⑧辞書／全ての授業を教える力を持っているから」「⑪ものさし／自分の意見があるから」となる。さらに「伝達者」には、「⑥指示棒」「⑩ロボット」が、あてはまり、「手本」には、「⑨あこがれ」

「⑬アヒルの親」が含まれる。「①ダーツの的」「⑫体力勝負」のように子どもとの関係性からも言及されている点や「②働きバチ」「③政治家」「⑦弱虫」など働く姿や資質面にも表現が及んでいる点から、その複雑な存在であることをとらえていることがうかがわれる。

## 6 まとめと今後の課題

本学科入学間もない学生に対して小学校教員希望の有無及びそれに関連する質問紙調査を行った。その結果、本学科の小学校教員希望の学生は、同学科の他学生に比べ、小学校の道徳や家庭科はそうでなかったものの、小・中学校における社会科、算数・数学科、理科に対して好意的であったことが明らかになった。また、小学校の授業は、幼稚園・保育所と共通したイメージがあり、かつ学習内容が決まっていることや学習方法が多様であることもとらえていたことが明らかになった。さらに小学校の教師に対しては、幼稚園教員や保育士の「育て手・支え手」の単一的なとらえから、「有識者」や「伝達者」「手本」といった多様なとらえに変化していることが確認できた。

以上の結果を踏まえ、今後の課題としては、次の点が挙げられる。一つは、例えば、理科に関心を示しているという結果を踏まえた場合、本学科の小学校教員養成カリキュラムにおいてどのような理科の内容を期待されているか明らかにしていかななくてはならない。また、それに基づくカリキュラム評価が求められる。二つめは、授業観にかかわる継続的な検討である。授業観は、具体的実践の場面を操作する影響がある。今回の調査では、これまでに受けた自らの授業体験を想起しながら授業メタファや教師メタファを作成したといえる。教える側の立場から見た授業観及びその形成過程については、本研究では未着手であったが、今後、継続的に検討していかななくてはならない重要な課題ととらえている。

### 註

- 1) 最近において、神戸松蔭女子学院大学、神戸海星女子大学、園田女子大学等に小学校教員免許取得可能な学部・学科が見られる。
- 2) 以下の文献の特集箇所が該当する。  
新制大学半世紀：「大学における教員養成」の再検討  
2000 日本教師教育学会年報，9，1-74.
- 3) 以下を参照。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/04120101.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/04120101.htm)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/16/12/04121301.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/12/04121301.htm)

### 引用文献

- 秋田喜代美 1994 「教えること」に対する信念の変容過程—伝達モデルから共同作成モデルへ—。日本発達心理学会第5回大会発表論文集，237。  
秋田喜代美 1996 教える経験に伴う授業イメージの変

容—比喩生成課題による検討—。教育心理学研究，44，2，176-186。

- 秋田喜代美 1998 授業をイメージする。浅田匡・生田孝至・藤岡完治編著 成長する教師 金子書房，74-88。  
Brickhouse, N. 1990 Teachers' beliefs about the nature of science and their relationship to classroom practice. *Journal of Teacher Education*, 41, 3, 53-62。  
堀江 伸・羽野ゆつ子 2000 教材メタファーにみる教員養成系学生の変容—新科目「教育実践研究」における授業づくり経験の中で—。日本教師教育学会年報，9，76-89。  
石戸教嗣 1994 教師の子どもメタファー。稲垣忠彦・久富善之編 日本の教師文化 東京大学出版会，69-83。  
岩田康之 2006 教師教育の組織・カリキュラムの改革動向。東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター編 教師教育改革のゆくえ—現状・課題・提言— 創風社，83-97。  
黒澤英典 2006 私立大学の教師教育の課題と展望—21世紀の教師教育の創造的発展をめざして— 学文社。  
楠見 孝 1993 教育のメタファー構造的メタファに基づく文化的モデルの分析—。日本発達心理学会第4回大会発表論文集，221。  
文部科学省 1997 新たな時代に向けた教員養成の改善方策について。教育職員養成審議会第1次答申。  
文部科学省 1999 教養と採用・研修との連携の円滑化について。教育職員養成審議会第3次答申。  
文部科学省 2002 今後の教員免許制度の在り方について。中央教育審議会答申。  
文部科学省 2005 新しい時代の義務教育を創造する。中央教育審議会答申。  
文部科学省 2006 今後の教員養成・免許制度の在り方について。中央教育審議会答申。  
中澤知恵 2004 理科の学習は将来の職業選択につながっていくか。村松泰子編 理科離れしているのは誰か 日本評論社，86-96。  
村松泰子・池上 徹・河野銀子・高橋道子・高平小百合・中澤知恵・藤原千賀 2000 理科教育・学習におけるジェンダー・バイアス—日常・自然体験と理科への関心・態度—平成11年度科学研究費補助金「学校教育におけるジェンダー・バイアスに関する研究」研究成果報告書  
村松泰子・池上 徹・河野銀子・高橋道子・高平小百合・中澤知恵・藤原千賀 2001 理科教育・学習におけるジェンダー・バイアス(2)—中学入学後1年間の変化—平成12年度科学研究費補助金「学校教育におけるジェンダー・バイアスに関する研究」研究成果報告書  
村松泰子・池上 徹・河野銀子・高橋道子・高平小百合・中澤知恵・藤原千賀 2002 理科教育・学習におけるジェンダー・バイアス(2)—中1調査・中2調査の二次分析—平成13年度科学研究費補助金「学校教育におけるジェンダー・バイアスに関する研究」研究成果報告書  
小沢有作 1985 学校メタファ。産業と教育の社会史編集委員会編 国家の教師・民衆の教師 評論社，8-72

榊原偵宏・高橋英児・大和真希子 2005 カリキュラムとしての「大学における教員養成」の可能性. 日本教師教育学会年報, 14, 116-126.

澤田利夫・下野 洋・三宅征夫・長崎栄三・松原静郎・瀬沼花子・猿田祐嗣・小林幸乃・鳩貝太郎・小倉 康 1997 教科に対する児童・生徒の意識 平成8年度

科学研究費補助金「数学・理科の教師教育プログラムの開発に関する実証的研究」研究成果報告書

TESS 研究会 2001 「大学における教員養成」の歴史的研究—戦後「教育学部」史研究— 学文社.

山崎準二 2006 教員養成カリキュラム改革の課題, 日本教師教育学会年報, 15, 33-43.